第２章　千葉県の文化芸術を取り巻く現状と課題

１．生活に関する意識

「国民生活に関する世論調査」（内閣府　平成 22 年 6 月）の「これからは心の豊かさか，まだ物の豊かさか」の調査では、今後の生活において「物質的にある程度豊かになったので，これからは心の豊かさやゆとりのある生活をすることに重きをおきたい」と答えた人は 60.0%に達しており、「まだまだ物質的な面で生活を豊かにすることに重きをおきたい」と答えた人の割合 31.1%の約 2 倍となっています。また、「今後の生活の力点」に関する意識の調査では、33.3%の方が「レジャー・余暇活動」を、24.5%の方が「自己啓発・能力向上」をあげています。多くの人が物の豊かさより心の豊かさを重視し、余暇活動や自己啓発への関心を高く持っていることがわかります。

一方、「平成 22 年度（第 40 回）県政に関する世論調査」（千葉県　平成 22 年 8 月）によると、芸術や文化に親しむ機会の満足度をたずねたところ、「満足している」が 23.1%、「不満である」が 22.7%であり、平成 20 年度、21 年度と比べると満足度は横ばい、不満度は少しずつ減少してきています。

このことから、県としても、県民が芸術や文化に親しむ機会を増やすなど、文化芸術活動の推進に積極的に取り組む必要があります。

２．本県の人口構成の推移

「政策環境基礎調査（将来人口推計）」（千葉県　平成 22 年 1 月）によると、千葉県の人口は平成 29 年（2017）をピークにゆるやかに減少していくと予測されています。

特に、14 歳以下の人口割合は平成 22 年の 13.3%から平成 37 年 11.2%と低下していく一方、65 歳以上の人口割合は平成 22 年の 20.5%から平成 37 年 28.7%と上昇し、急速に高齢化が進んでいく見込みとなっています。

文化芸術についても、人口構成の変化に対応した施策の推進が求められています。

一方、将来の文化芸術を支える若年層の人材の育成が必要です。

３．県民の文化芸術活動の状況

（１）県民が行う文化芸術活動（全年齢層）

「平成 22 年度第 2 回インターネットアンケート」（千葉県　平成 22 年 9 月）の「県民の文化芸術活動に関する調査」（以下「調査１」という。）によると、「昨年度（平成 21 年度）に県内の文化会館やホール、美術館・博物館などで行われた公演や鑑賞会、展覧会等に行った」と回答した人（以下「行った人」という。）が 46.3%であるのに対して、「今年度（平成 22 年度）は県内の文化会館やホール、美術館・博物館などで行われる公演や鑑賞会、展覧会等に行ってみたい」と回答した人（以下「行きたい人」という。）は 81.6%にのぼりました。「行った人」の割合が「行きたい人」の割合の半分であることから、県民が気軽に文化芸術にふれる機会を提供することが必要と思われます。

また、「現在、文芸・音楽・美術などの文化芸術活動をしていますか」の質問に対して、「定期的に活動している」「ときどき活動している」と答えた人は20.9%であり、その活動分野をたずねたところ、「美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸など）」及び「写真」が23.8%と最も多く、次いで「クラシック音楽」が21.4%、「ポピュラー音楽」及び「生活文化（茶華道、書道、盆栽など）」が 19.0%と続き、さまざまなジャンルで活動していることがわかります。

一方、「現在、文芸・音楽・美術などの文化芸術活動をしていますか」の質問に対して、「活動していないが、今後活動したい」と答えた人は41.3%であり、「定期的に活動している」「ときどき活動している」と答えた人の割合の2倍近いことから、文化芸術活動への参加について潜在的なニーズは高いことがわかります。

文化芸術活動について「定期的に活動している」「ときどき活動している」と答えた人に、活動を行う際に感じた不満や不便をたずねたところ、「特に不満や不便はない」（31.0%）が最も多く、次に「時間があまりとれない」「参加費（活動費）が高い」（26.2%）と続きました。参加しやすい機会を提供することによって、県内の文化芸術活動は一層盛んになるものと考えられます。

（２）県民が行う文化芸術活動（高齢者層）

千葉県生涯大学校の学生を対象に行った「県民の文化芸術活動に関するアンケート調査」（千葉県　平成22年12月）によると、「昨年度（平成21年度）に県内の文化会館やホール、美術館・博物館などで行われた公演や鑑賞会、展覧会等に行った」と回答した人は83.9%であり、「今年度（平成22年度）は県内の文化会館やホール、美術館・博物館などで行われる公演や鑑賞会、展覧会等に行ってみたい」と回答した人は95.5%でした。

また、「現在、文芸・音楽・美術などの文化芸術活動をしていますか」の質問に対して、「定期的に活動している」「ときどき活動している」と答えた人は48.1%であり、その活動ジャンルは、「美術」（25.8%）、「生活文化」（23.5%）、「ポピュラー音楽」（18.8%）、「地域の歴史・文化財」（16.4%）の順でした。

「活動していないが、今後活動したい」と答えた人に活動したいジャンルをたずねたところ、「地域の歴史・文化財」（50.0%）が最も多く、次に「生活文化」（44.6%）でした。前述の調査１での同様の質問では、「地域の歴史・文化財」は、「写真」（34.9%）、「美術」（28.9%）に次いで26.5%、「生活文化」は10.8%であることから、高齢者は他の年齢層に比べて地域や生活文化への関心が高くなっていると思われます。

文化芸術活動について「定期的に活動している」「ときどき活動している」と答えた人に、不満や不便をたずねたところ、「特に不満や不便はない」（38.8%）が最も多く、次に「教室や講習が少ない」（20.0%）と続きました。また、高齢者層では、文化芸術活動を行っている人の割合が高いことが分かります。これは他の年齢層に比べて、時間的なゆとりがあることに起因すると考えられます。

高齢者の文化芸術活動は盛んであり、今後も高齢者の割合が一層増加することを考えると、高齢者のニーズに合った文化芸術活動の機会の提供が必要です。

４．文化芸術団体・市民活動団体の状況

本県には文化芸術活動を目的とする数多くの団体があります。このうち、県内全域を活動範囲とする県域団体計 23 団体と、各市町村において文化団体を統合する連合体組織計 33 団体との計 56 団体により、千葉県芸術文化団体協議会が結成されています。また、文化振興を主たる目的とする公益法人が 14 法人あります。さらに、文化芸術系市民活動団体（以下「アート NPO」という。）も様々な文化芸術に関する活動を展開しており、活動分野に「学術、文化、芸術又はスポーツ」分野を含む NPO 法人は 545 団体と、法人全体の 34.0％を占めています。県内の文化芸術活動において、これらの団体による活動は大きな役割を果たしています。

千葉県芸術文化団体協議会に加盟している県域文化芸術団体を対象に行った「県民の文化芸術活動に関するアンケート調査」（千葉県　平成 22 年 12 月）によると、会員の 74％が 50 歳以上と高い年齢層で構成されており、38.9％が事業・活動をする際の不便や不満として「新加入者が少ない」ことをあげています。

今後、文化芸術団体や、アート NPO 等には、県民の自主的な文化芸術活動を支えるうえで、大きな役割を果たすことが期待されており、新たな加入者、特に若い人たちの参加による活動の充実や関係団体間の連携が求められています。

５．県内市町村の文化振興計画・条例等の状況

県内市町村での文化振興ビジョン・計画・条例の策定状況は次のとおりであり、それぞれの地域の個性、特色を生かした文化行政が進められています。

・市 川 市「市川市文化振興ビジョン」を策定（平成 15 年）
・浦 安 市「浦安市文化振興ビジョン」を策定（平成 18 年）
・千 葉 市「千葉市文化芸術振興計画」を策定（平成 20 年）
・八千代市「八千代市文化芸術の振興に関する基本方針」を策定（平成 20 年）
・我孫子市「我孫子市文化芸術振興条例」を制定（平成 21 年）
　　「我孫子市文化芸術基本方針」を策定（平成 22 年）
・柏　　市「第三次柏市芸術文化振興計画」を策定（平成 23 年）

このほかの市町村においても、文化芸術振興基本法に基づき、自主的かつ主体的に、地域の特性に応じた施策を策定し、実施していくことが期待されます。

６．メセナ活動

企業による芸術文化支援（メセナ活動）は、今日、文化芸術振興に大きな役割を果たしています。「2010 年度メセナ活動実態調査」（公益社団法人企業メセナ協議会）によると、本県におけるメセナ活動の実施企業数は 24 社（全国第 13 位）、プログラム数は 34 プログラム（全国第 13 位）です。

メセナ活動実施企業全体を対象とした調査によると、メセナ活動の実施分野別では、「音楽」（39.2％）、「美術」（26.3％）の順となっています。

社会を挙げての文化芸術振興に取り組むためには、企業等によるメセナ活動を一層促進していく必要があり、そのためにも、メセナ活動の意義や税制上の優遇措置などの制度、県内のメセナ活動の状況などを周知していく必要があります。

７．文化施設の状況

県民が文化活動に触れ、取り組みやすい環境づくりをするうえで、文化会館、美術館、博物館、図書館等の文化施設は、文化芸術活動の拠点として重要です。

（１）文化会館

「社会教育調査」（文部科学省　平成 20 年 10 月）によれば、本県の文化会館の設置数は 54 館（うち県立は 4 館）で全国第 9 位、文化会館ホールにおける事業（舞台芸術･芸術公演事業）の入館者数は 458,460 人で全国第 7 位です。

平成 22 年度の県立文化会館の利用者・入館者（ホール以外の施設を含む。）は、736,404 人でした。

（２）美術館・博物館

「社会教育調査」（文部科学省　平成 20 年 10 月）によれば、県内の美術館・博物館の設置数は 41 館（うち県立は 6 館）で全国第 7 位、入館者数は約 293 万人で全国第 13 位です。（平成 20 年度「社会教育調査」）

平成 22 年度の県立美術館・博物館の利用者・入館者は、970,702 人でした。

「平成 21 年度第 4 回インターネットアンケート」(千葉県　平成 22 年 2 月)の「県立美術館・博物館についてのアンケート調査」では、県立美術館・博物館を「利用したことがある」と答えた人に、県立美術館・博物館の満足度をたずねたところ、「満足している」が 30%、「満足していない」が 33%、「どちらともいえない」が 37%でした。

「満足していない」と答えた人に、その理由をたずねたところ、「館内の展示や催し物の情報などが不足している」（51%）が最も多く、「展示や催し物の広報活動などが不足している」(42%)、「展示や催し物が面白くない」(40%) などの順でした。

また、これからの県立美術館・博物館に期待することをたずねたところ、「自然や歴史の資料、美術作品を収集・調査研究し、後世に継承すること」(62%)、「魅力的な展示(展覧)会を開催すること」(61%)、「県民の生涯学習の役に立つこと」(43%)、「県民に娯楽や憩いの場を提供すること」（41%）などの順でした。

（３）図書館

「社会教育調査」（文部科学省　平成 20 年 10 月）によれば、県内の図書館の設置数は 133 館（うち県立は 3 館）で全国第 5 位、図書館で図書を借りた人の延べ人数（帯出者数）は 8,294,868 人で全国第 7 位であり、平成 22 年度の県立図書館の利用者・入館者は、507,703 人でした。

「全国学力・学習状況調査」（文部科学省　平成 22 年 4 月）によると、「読書は好き」と答えた児童生徒の割合は小学校で 50.1%、中学校で 49.5%と、全国平均（小学校 47.4%、中学校 43.7%）を上回っており、また、「社会生活基本調査」（総務省平成 18 年 10 月）でも、過去 1 年間に行った「趣味・娯楽」に「趣味としての読書」を挙げた人の割合は 46.6%と全国平均の 41.9%を大きく上回っています。

文化会館や美術館・博物館、図書館への関心も利用の程度も高く、同時に充実した展示等への要求も高いことがわかります。

8．学校教育における文化振興

県内の小学校･中学校・高等学校の児童･生徒数は、平成 12 年度は 696,533 人であったのが、平成 22 年度には 649,235 人と、減少が続いています。

「学校における鑑賞教室等実態調査」(社団法人日本芸能実演家団体協議会　平成 20 年 3 月）によると、本県の学校における鑑賞教室の実施率は 62.6％で、全国平均（68.9％）を下回っています。これは東京都、神奈川県、埼玉県など首都圏に共通する傾向です。

学校は、文化芸術にふれ、基本的な知識、技能等を培う場であることから、本県の文化芸術活動のすそ野の拡大にとって不可欠な存在であり、学校教育における文化振興の充実が必要です。

9．文化財等の指定状況

本県には、房総の自然や歴史・文化の豊かさを物語る価値の高い文化財が数多く残されています。

平成 22 年度末現在、県内の指定文化財は 669 件あり、うち国指定の文化財は 128 件、県指定の文化財は 541 件あり、この中には、国宝が 4 件、特別天然記念物が 1 件含まれています。

このほか、国が選定した重要伝統的建造物群保存地区（1 地区)、選定保存技術（1 件)、国による登録文化財（147 件）などがあります。

県内の多彩な文化財は、後世に伝えるべき貴重な遺産であるとともに、地域振興や観光・産業振興への活用が期待される文化資源でもあり、地震等の災害から守るなどその適切な保存が必要です。

10. ちば遺産 100 選・ちば文化的景観

本県では、県民が地域の自然・歴史・文化を身近に感じ、自然環境と文化財の保護・保存意識を高めるとともに、地域振興やまちづくり、観光資源としての活用にもつなげていきたいと考え､平成 20 年度に､将来に引き継ぎたい千葉の自然や歴史、文化、風景などを、県民投票をもとに「ちば遺産 100 選」「ちば文化的景観」として選定しました。

「ちば遺産 100 選」は県内 8 ゾーン 100 か所､「ちば文化的景観」は同じく 8 ゾーン 60 地区を選定しました。

将来に引き継ぎたい千葉の自然や歴史、文化、風景などは、地域全体として保護・保存意識を高めて将来に引き継ぐと同時に地域振興に活用していくことが必要です。

11. 伝統的工芸品の指定状況

本県では、県内の伝統的工芸品を地場産業として育成するため、昭和 59 年度に千葉県伝統的工芸品指定制度を発足させ、これまでに、木工品・金工品・染色品など 172 件を指定しています。

こうした伝統的工芸品は、地場産業であるだけでなく、継承すべき伝統技術として重要であり、地域の活性化にもつながる文化資源として活用が期待されます。

12. 県外や世界に誇れる「千葉らしさ」

調査１で、「県外や世界に誇れる『千葉らしさ』」について聞いたところ、「自然環境」とした回答が 75.6％でしたが、第２位以下には「地域の伝統芸能や祭り、食文化など」（33.8％）や「史跡や神社仏閣、美術工芸品等の文化財」（20.4％）などが続き、風土に根差した歴史や伝統文化について、千葉らしさを表わすものとしてとらえられていることがわかります。

このように、「千葉らしさ」は、とらえる人によって様々ですが、それらの総体が「ちば文化」であり、今後も継承していくことが必要です。

13.「ちば文化」の将来像・理想像

調査１で、「『千葉らしい』個性ある地域文化を創造するうえで、より望ましい将来像・理想像」について尋ねたところ、「地域独自の文化芸術や歴史がまちづくりに生かされている姿」（49.8％）が最も多く、次いで「青少年が文化芸術に触れ、創造性や感性が育まれている姿」（37.3％）、「多くの県民が日常的に文化芸術に慣れ親しんでいる姿」（36.8％）及び「県内の伝統芸能が受け継がれ発展していく姿」（36.8％）が続いています。

このことから県民が思い描く県の理想像について、文化芸術や歴史がまちづくりに活用された取り組みへの期待が最も大きいことがわかります。

14. 文化振興に県が果たす役割

調査１で、「県が文化振興に果たす役割」についてたずねたところ、全年齢層では、「青少年が文化芸術に親しむ機会の充実」（50.2％）との回答が最も多く、次いで「文化財や伝統芸能などの保存・継承への支援」（46.3％）、「優れた音楽会や展覧会などの鑑賞機会の充実」（45.3％）、「文化芸術に関する情報の提供」（42.8％）が続いています。

高齢者層（生涯大学校生）を対象とした「県民の文化芸術活動に関するアンケート調査」（千葉県　平成 22 年 12 月）での同様の質問に対しては、「優れた音楽会や展覧会などの鑑賞機会の充実」（48.4％）との回答が最も多く、次いで「文化芸術に関する情報の提供」（36.8％）、「練習や稽古など文化芸術活動ができる施設の整備」（36.3％）、「青少年が文化芸術に親しむ機会の充実」（27.9％）が続いています。

文化芸術団体を対象とした同様のアンケート調査「県民の文化芸術活動に関するアンケート調査」（千葉県　平成 22 年 12 月）での同様の質問に対しては、「青少年が文化芸術に親しむ機会の充実」（21.9％）との回答が最も多く、次いで「優れた音楽会や展覧会などの鑑賞機会の充実」（18.8％）、「練習や稽古など文化芸術活動ができる施設の整備」（14.1％）、「若手芸術家の育成・支援」（10.9％）が続いています。

いずれの調査でも、「優れた音楽会や展覧会などの鑑賞機会の充実」や、「青少年が文化芸術に親しむ機会の充実」が大きな割合を占めており、こうした事業を積極的に進めていく必要があります。